

# ドクターに聞きました

## これからの高齢者医療について

特に新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう最中にあってオンライン診療が意味するところ

令和2年は年初から少し経過した頃より日本中で新型コロナウイルス感染症

が猛威をふるい出し、大きなうねりとなつて現在まで押し寄せています。高血

圧症、糖尿病を始め、各種慢性疾患をお持ちの方、特に高齢者はこの感染症

にかかるとより重症化しやすいと言われて

いますので、感染の機会が多いいわゆる3密空間（密閉、密集、密接）に

は近寄らない、またマスク常用、手洗いの励行など徹底して行う必要があります、

その結果、家庭内に閉じこもりを余儀なくされ、社会生活に多大な影響を与

えています。先行きの見通しがあつかない中、病気を抱えた高齢者は、体調悪化

を予防し、体調維持、時には改善をはかる手立てを求めて、そのような中で

も病院に行かねばなりません。感染の恐怖とのジレンマに悩みながら日々不安

な時をお過ごしかと思えます。我々第一線の開業内科医はそんな高齢者のため

に日々救いの手を差し伸べるべく苦闘しています。

このコロナ禍にあつて、国は今、病院へ行かずとも、感染症の振り分けや慢性疾患の管理、お薬の処方可能なオ

ンライン診療の環境を整えつつあります。従来の電話だけでなく、スマホやタ

ブレット、或いは将来的にはテレビ画面で医師と患者さん双方が画面を見なが

ら会話をし、患者さんは病状を伝え、医師はそれを把握するという関係を築

くことが出来るようになります。対面時以外は時計型の生体情報端末から血

圧、脈拍数、呼吸数、SPO2、体温等を経時的に伝送することにより、安

心、安全を担保することも可能です。この生体情報伝送は在宅医療でも強力

な武器となり、居ながらにして自宅のベッドが病院のベッドになり得るのです。

もちろん、節目節目には病院へ行き、オンラインでは出来ないオフラインでの

血液検査、検尿、心電図、胸写、エコー等の検査は必要です。つまり、オンライ



医療法人藤誠会  
後藤クリニック 院長  
後藤 誠一 先生

### 資格

日本糖尿病協会療養指導医  
日本認知症予防学会専門医  
開業当初から音楽療法を実践し、心身ストレス性疾患や認知症の音楽療法に取り組んでいる。日本音楽療法学会会員。

医療法人藤誠会  
後藤クリニック  
内科・小児外科・外科・リハビリテーション科  
北九州市戸畑区千防 1-1-20  
TEL 093-883-1510

ンとオフラインのハイブリッド医療を構築して行くのがこれからの医療の在り方です。これに最も馴染みやすいのが高齢者医療です。オンラインでは患者個人の

データが匿名化されて自動蓄積が可能になりますので、将来的には個人の集

積データがビッグ・データとなり、様々な疾病の診断・治療にフィード・バック

され、未来の疾病管理に役立つことでしょう。高齢の患者さんは、常日頃は

オンラインでかかりつけ医と密接なつながりを持ちながら、無理に病院に行く

負担を軽減し、感染のリスクを減らし、刻々と変化する病状を評価してもらい、

薬の宅配で安全、安心の医療を受けることが出来ます。欧米に後れをとった

日本のオンライン診療ですが、コロナ時代だけでなく、コロナが収束した後も、

これからの新時代にマッチした医療とし

て成長して行くことでしょう。先ずはかかりつけ医にお電話ください。わからない場合は手助けして頂けます。図は実際に

### 新型コロナウイルス感染症の影響下、地域で求められる医療体制

かかりつけ医によるオンライン発熱外来の開設によって  
来院者・医療者の感染リスクを軽減する診療を実現

